



株式会社フコク(東証プライム:5185)

2024年5月22日

決算説明会

2024年3月期



Yes, We Do!

1. 決算のポイント
2. 2024年3月期実績
3. 2025年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 中期経営計画の進捗

1. 決算のポイント



1. 決算のポイント

2024年3月期実績

中国における景気低迷、資源価格高騰による原材料費の高止まり等の影響を受けたが、自動車メーカーの生産調整による影響の緩和、円安の影響による円換算時の売上増、原材料費や燃料費の上昇の影響を合理化や売価反映等により吸収し **増収・増益**

2025年3月期予想

不安定な海外情勢の継続、世界的な為替の変動、資源価格高騰等による物価上昇の傾向が続くことを想定

2024年度は「新中期経営計画2026」の初年度であり、目標を達成すべく、自動車メーカーの受注回復、拡販努力、生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図り、**売上高、利益ともに過去最高を目指す**

配当

2024年3月期の期末配当金は32.5円に**増配（+5円）** 中間配当金27.5円と合わせた年間配当金は60円

2025年3月期の年間配当金予想は75円 **（前年比+15円）** を計画

2. 2024年3月期実績



2. 2024年3月期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2023年 3月期	2024年 3月期		
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	82,318	88,847	+6,529	+7.9%
営業利益 (売上高対営業利益率)	2,010 (2.4%)	3,646 (4.1%)	+1,636 (+1.7pp)	+81.4%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,139 (3.8%)	4,094 (4.6%)	+955 (+0.8pp)	+30.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,135 (2.5%)	3,050 (3.4%)	+915 (+0.9pp)	+42.9%

※pp = パーcentageポイント

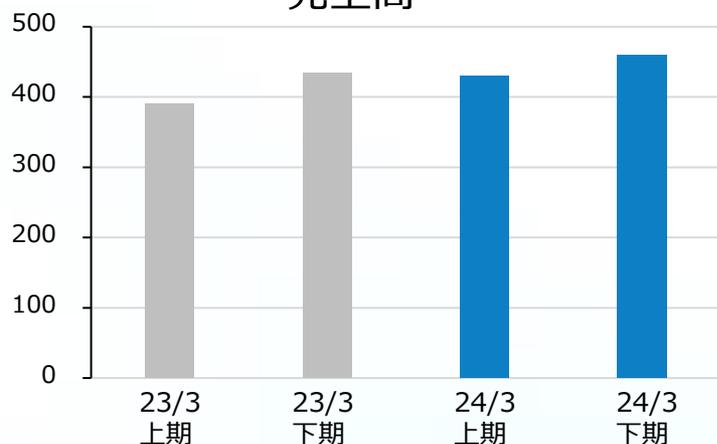
原材料費高騰等の影響を、合理化・売価反映等で吸収し増収増益

2. 2024年3月期実績

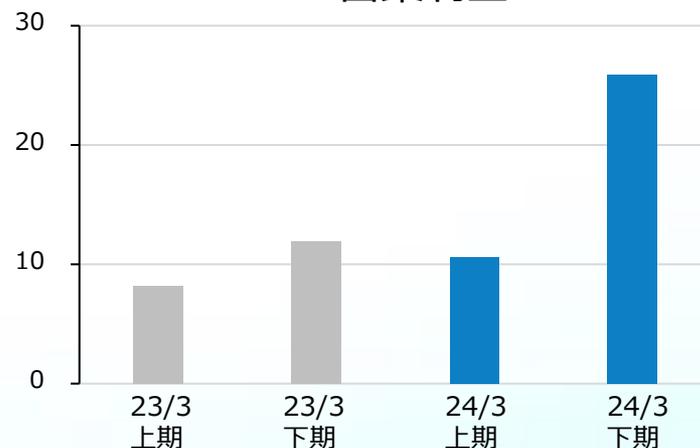
実績推移 (連結・半期)

(単位：億円)

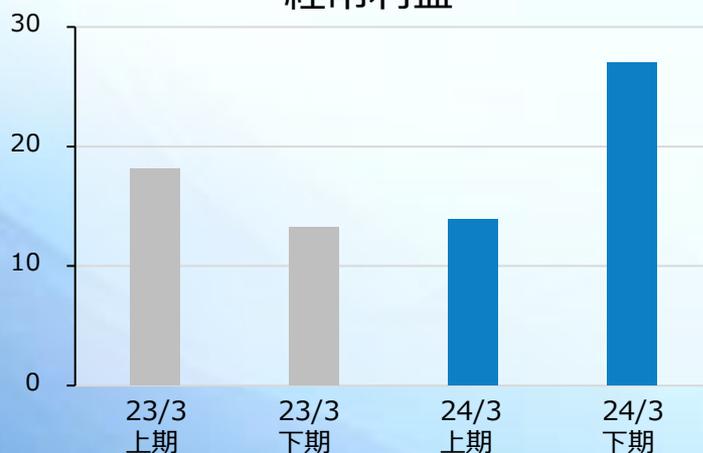
売上高



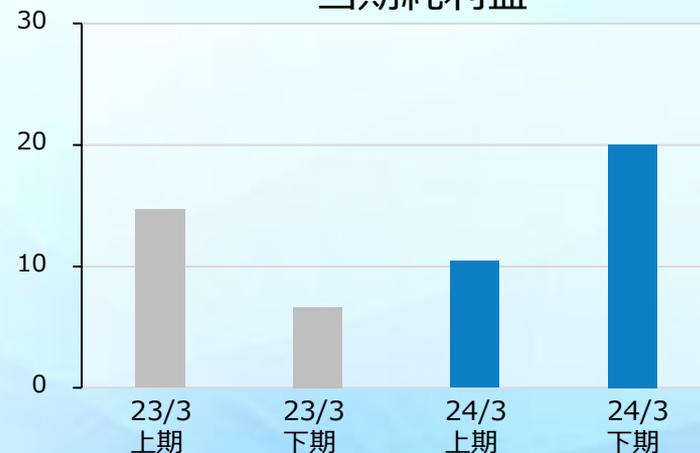
営業利益



経常利益



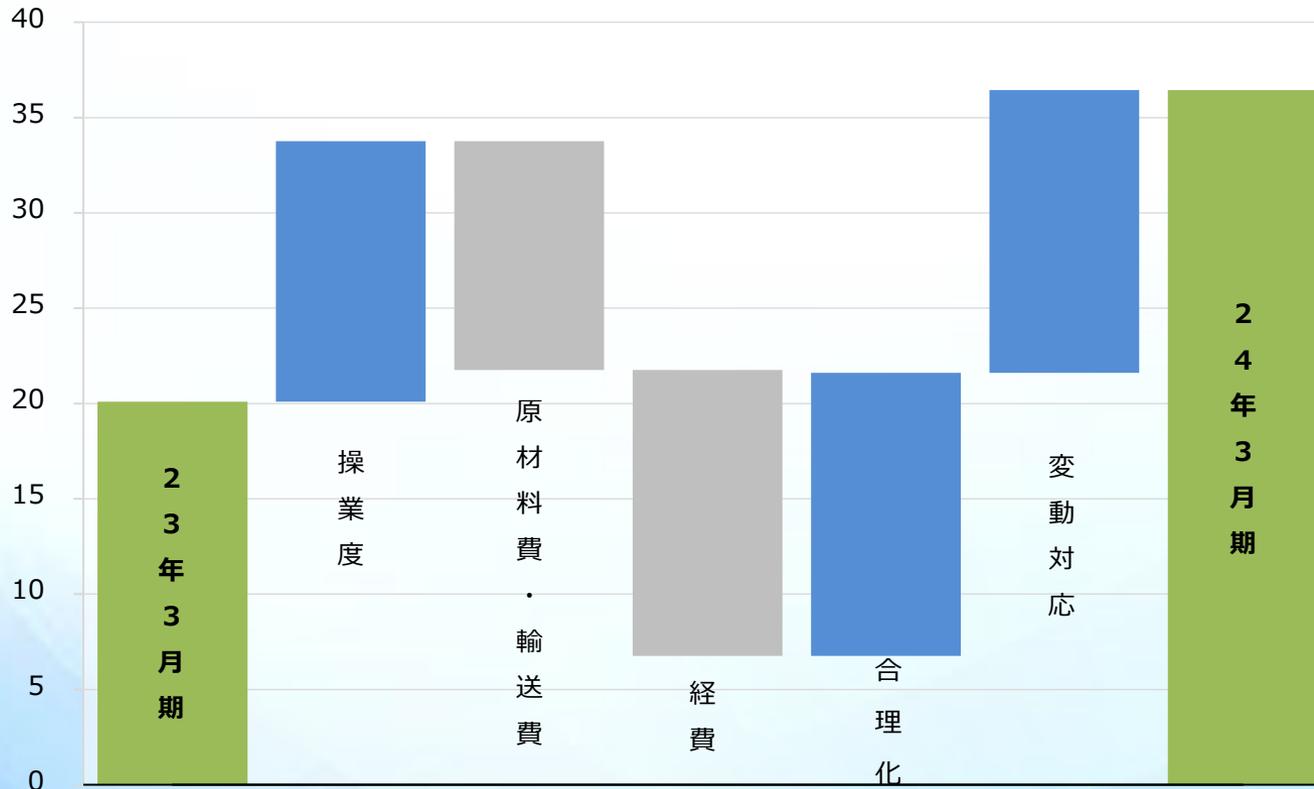
当期純利益



2. 2024年3月期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



2. 2024年3月期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前年増減額
現金及び預金	9,972	12,011	2,039
受取債権	19,731	20,591	860
棚卸資産	11,054	11,427	373
その他流動資産	1,770	1,686	△ 83
流動資産計	42,528	45,718	3,189
有形固定資産	25,896	26,695	799
その他固定資産	3,105	3,619	514
固定資産計	29,001	30,315	1,313
資産計	71,530	76,033	4,503
借入金	12,979	11,525	△ 1,453
支払債務	11,342	12,330	987
その他流動固定負債	9,255	10,167	911
負債計	33,577	34,023	445
株主資本計	32,534	34,780	2,245
非支配持分	2,333	2,472	139
その他	3,084	4,757	1,672
純資産計	37,952	42,010	4,057
負債・純資産計	71,530	76,033	4,503

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績
税前利益	3,511	4,093
減価償却費	4,471	4,653
売上債権の増(△)減(+)	△ 1,572	△ 122
棚卸資産の増(△)減(+)	△ 876	122
仕入債務の増(+)減(△)	971	213
その他	△ 2,990	△ 118
営業活動によるC F	3,515	8,843
有形固定資産の取得	△ 4,103	△ 4,027
その他	114	△ 438
投資活動によるC F	△ 3,988	△ 4,466
借入れによる収入	4,104	2,055
借入金の返済による支出	△ 2,527	△ 3,934
その他	△ 823	△ 902
財務活動によるC F	753	△ 2,781
フリー・キャッシュ・フロー	△ 473	4,377

- 本業の回復と売上債権の回収によりフリー・キャッシュ・フローも改善

- 円安下での為替換算の影響により現預金が増加
- 当社決算日が金融機関休日のため、未決済の支払債務が含まれており、現預金が一時的に増加

3. 2025年3月期業績予想



3. 2025年3月期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2024年 3月期	2025年 3月期		
	実績	予想	増減額	増減率
売上高	88,847	93,000	+4,153	+4.7%
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,646 (4.1%)	4,800 (5.2%)	+1,154 (+1.1pp)	+31.6%
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,094 (4.6%)	4,800 (5.2%)	+706 (+0.6pp)	+17.2%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	3,050 (3.4%)	3,750 (4.0%)	+700 (+0.6pp)	+22.9%

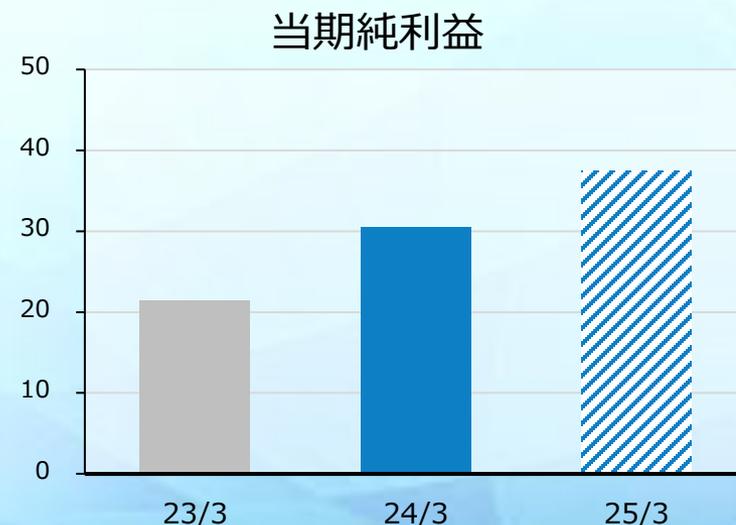
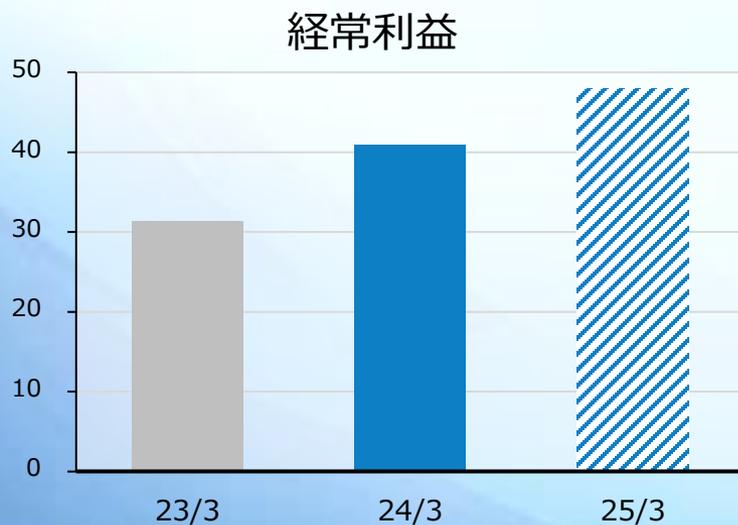
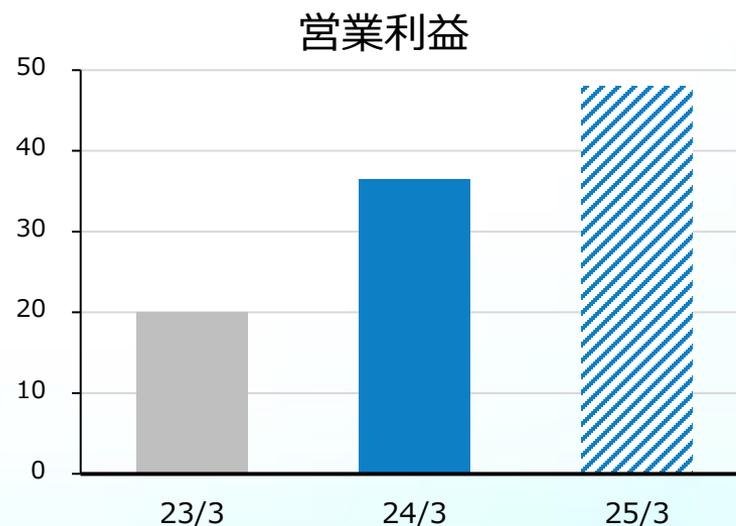
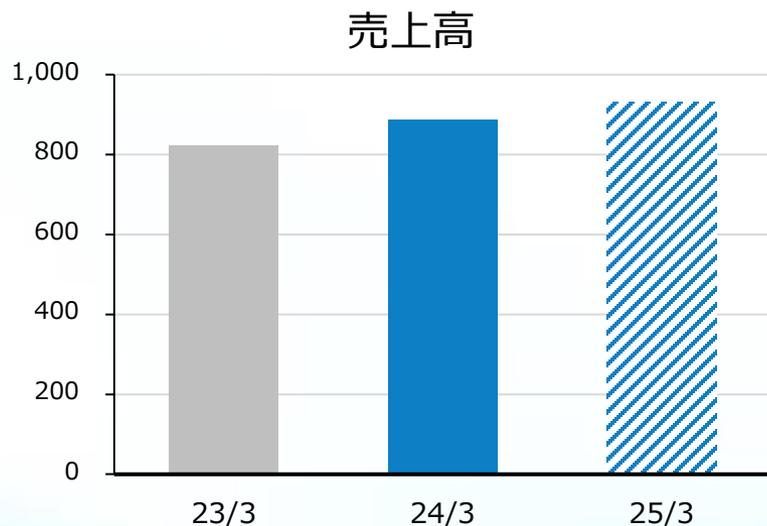
※pp=パーセンテージポイント

受注好調、生産工程の合理化や原材料価格等の変動対応により、増収増益を計画

3. 2025年3月期業績予想

予想推移 (連結)

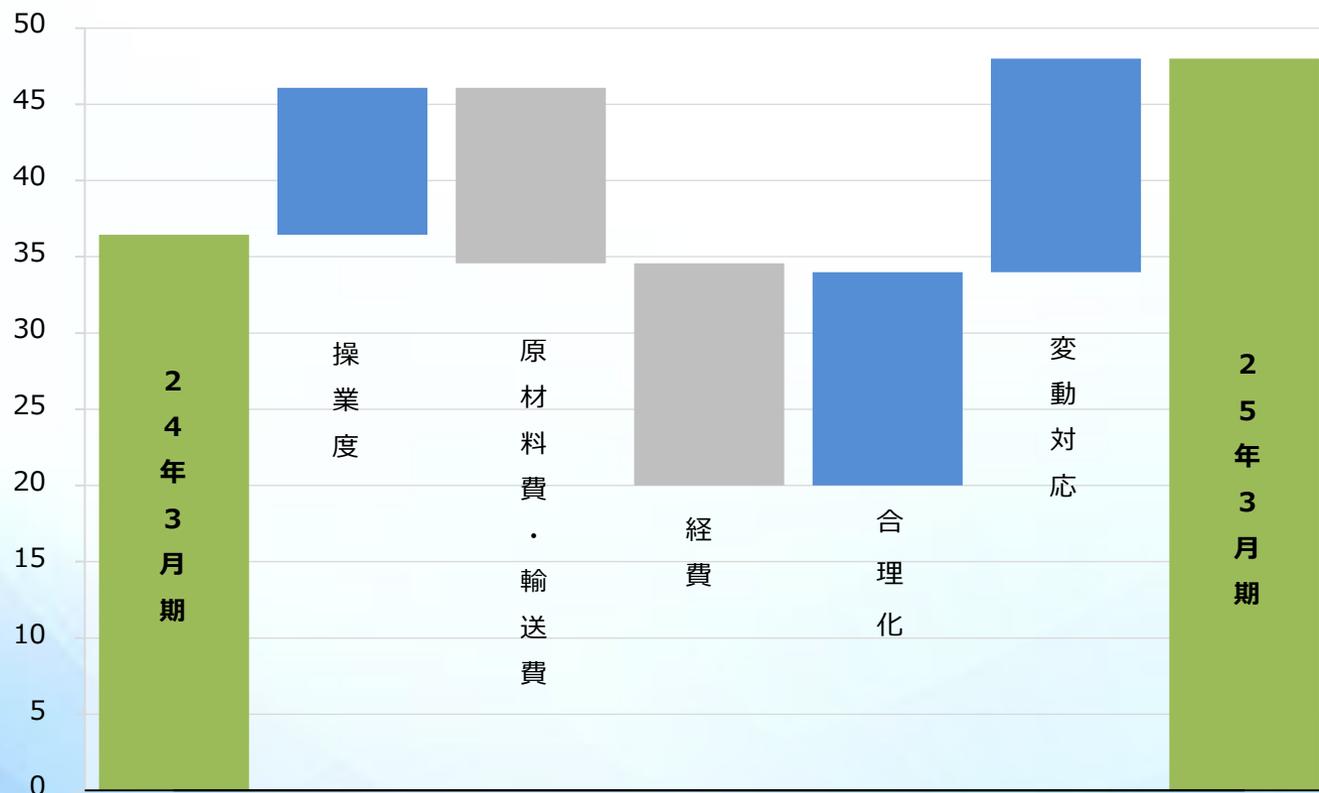
(単位: 億円)



3. 2025年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



4. セグメント別・地域別の状況



4. セグメント別・地域別の状況

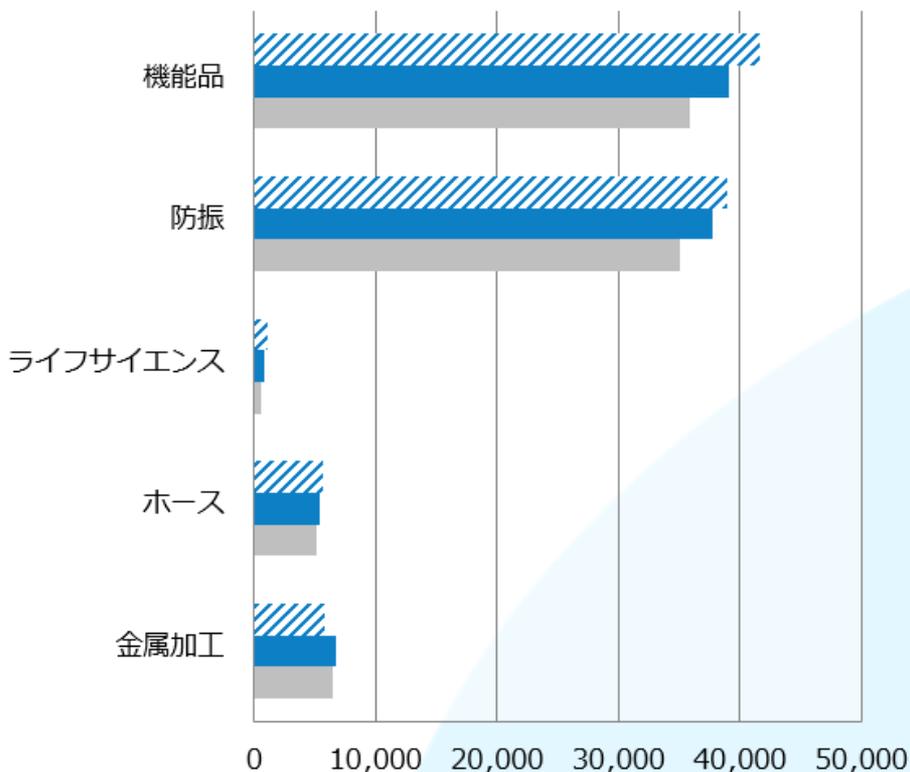
セグメント別

▨ 2025年3月期
■ 2024年3月期
■ 2023年3月期

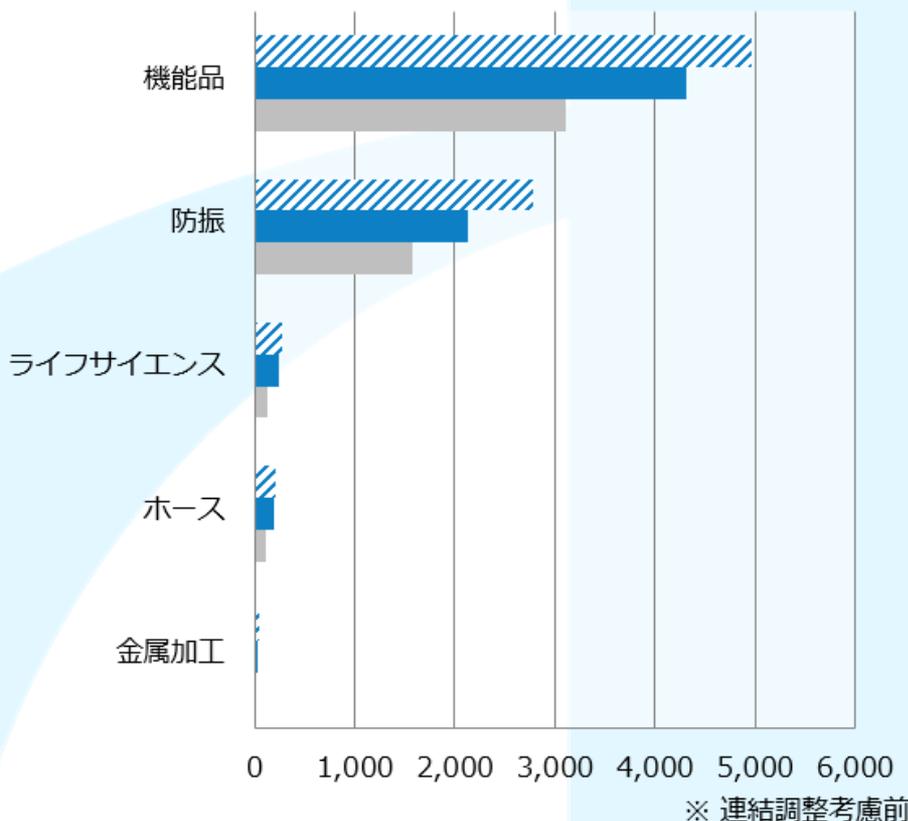
※ 報告セグメントの変更に伴い、
2023年3月期・2024年3月期は
旧 産業機器の組替後となります

(単位：百万円)

売上高



営業利益



※ 連結調整考慮前

24年3月期は全セグメントで黒字達成、来期以降も継続した黒字を計画

4. セグメント別・地域別の状況

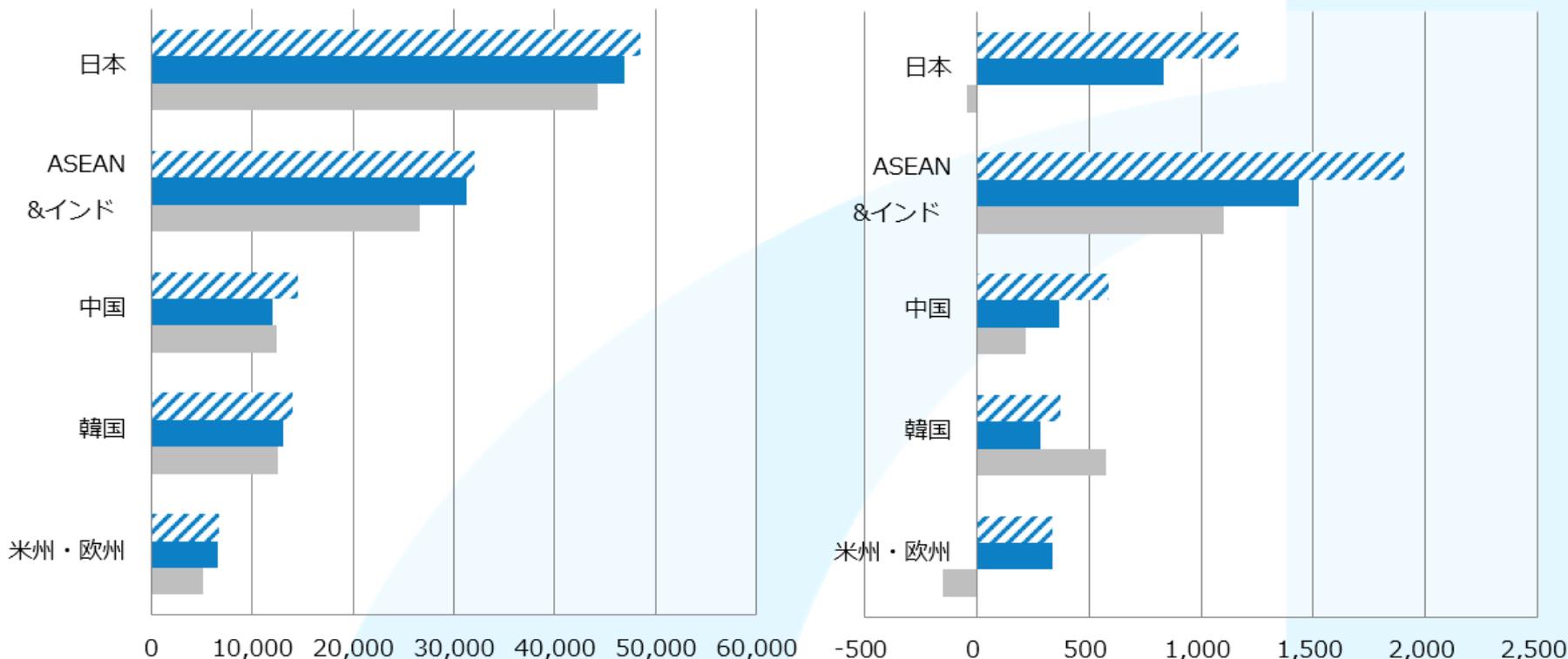
地域別

▨ 2025年3月期
■ 2024年3月期
■ 2023年3月期

(単位：百万円)

売上高

営業利益



※ 連結調整考慮前

25年3月期は全地域における増収増益を計画

5. 株主還元



5. 株主還元

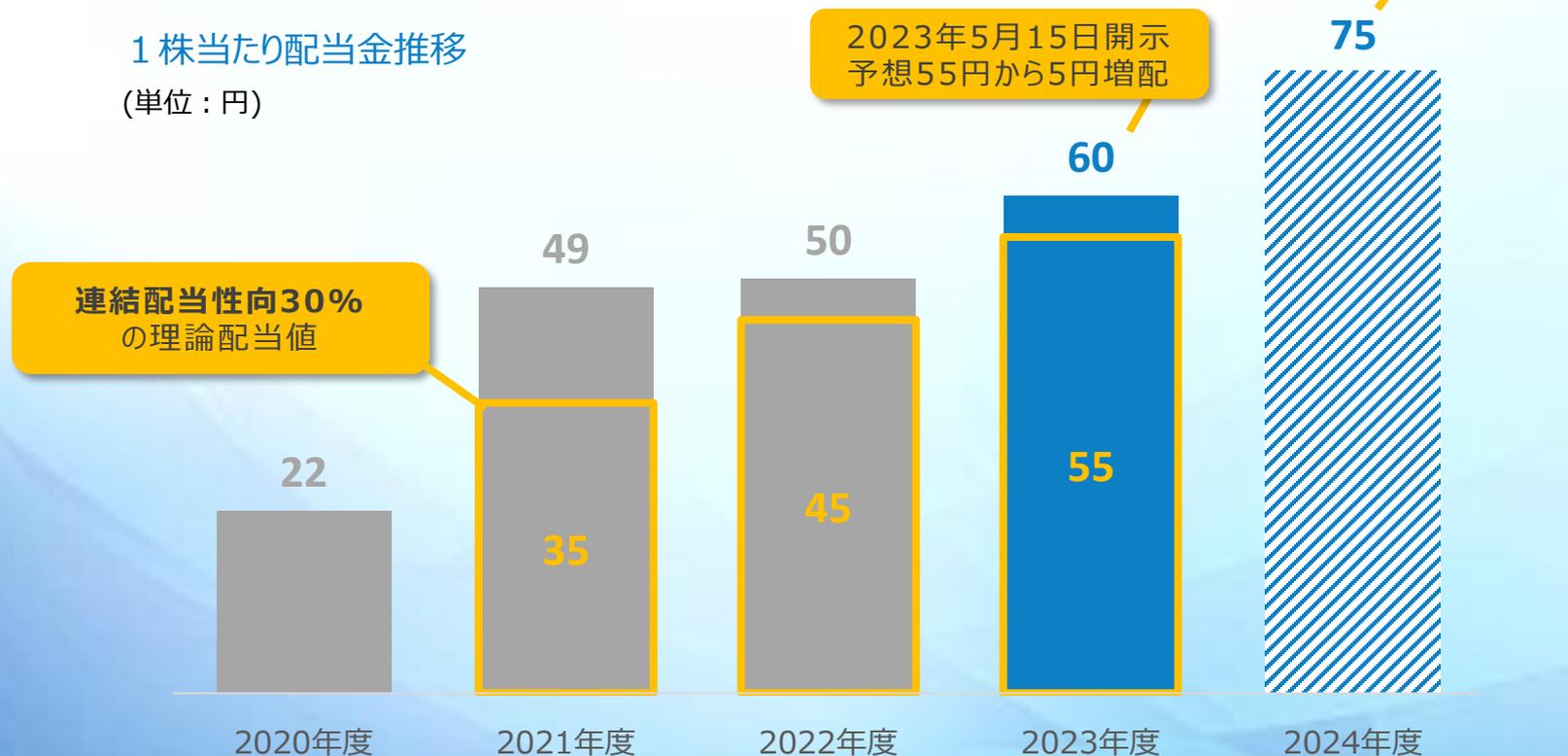
株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限
※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

1株当たり配当金推移

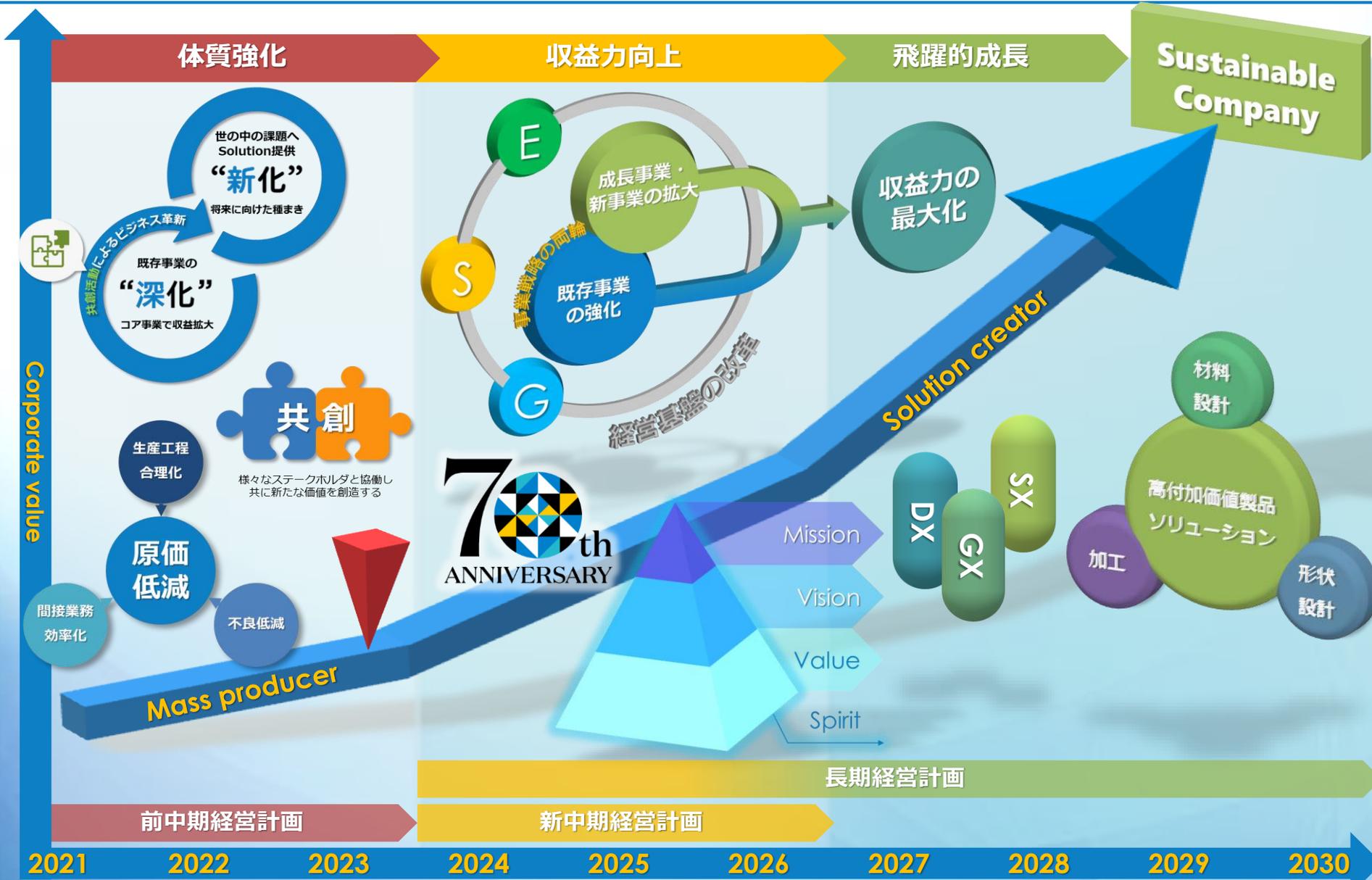
(単位：円)



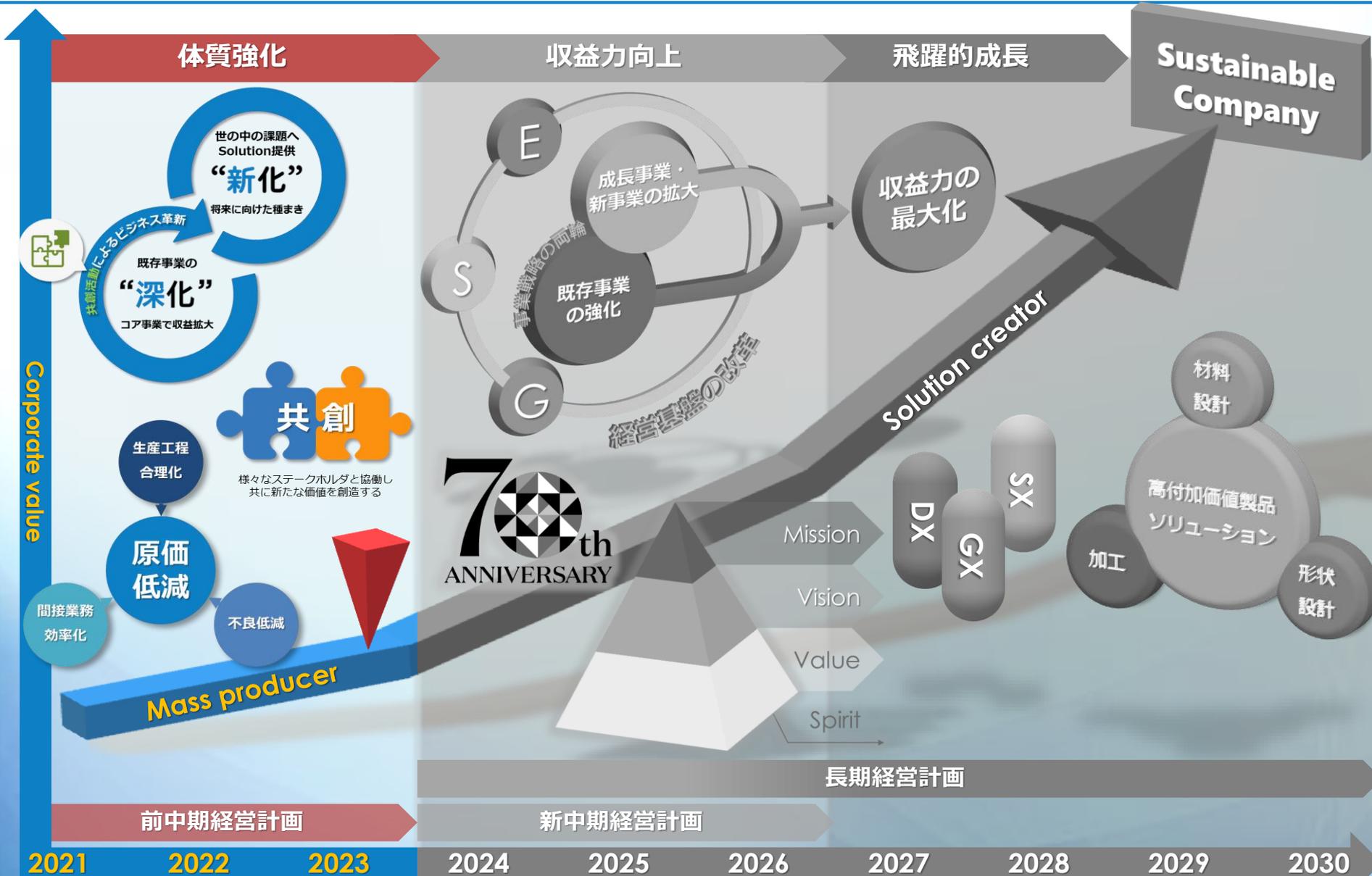
6. 中期経営計画の進捗



6. 新中期経営計画2026の全体像



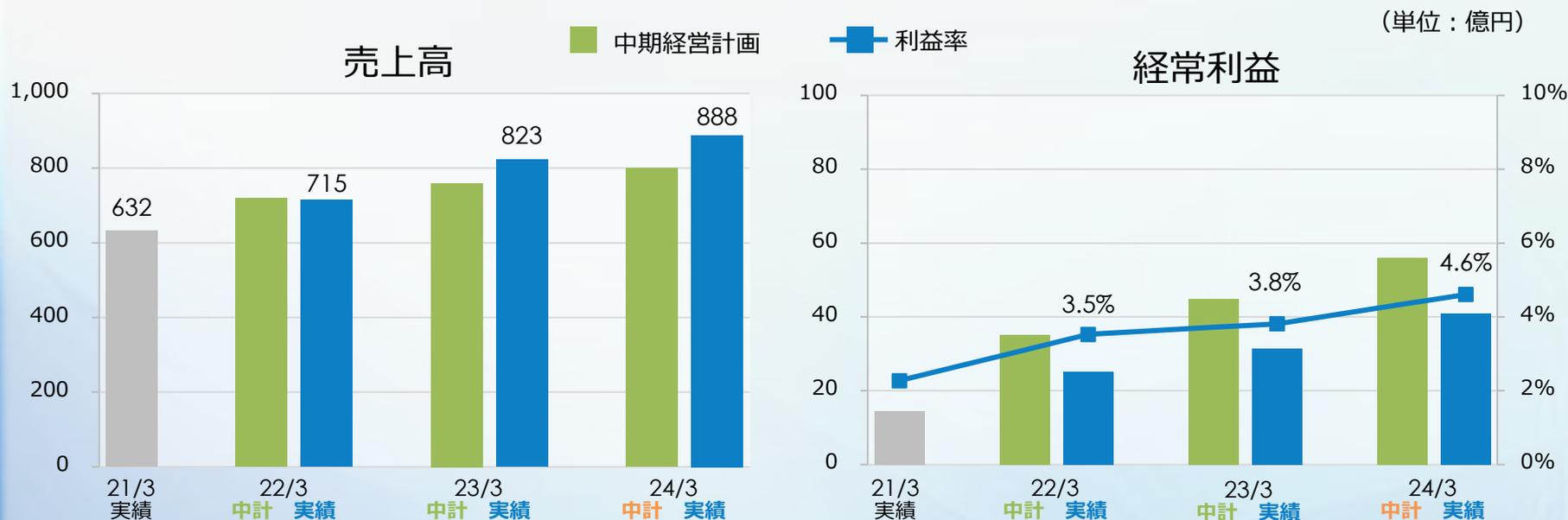
6. 前中期経営計画の振り返り



6. 前中期経営計画の振り返り

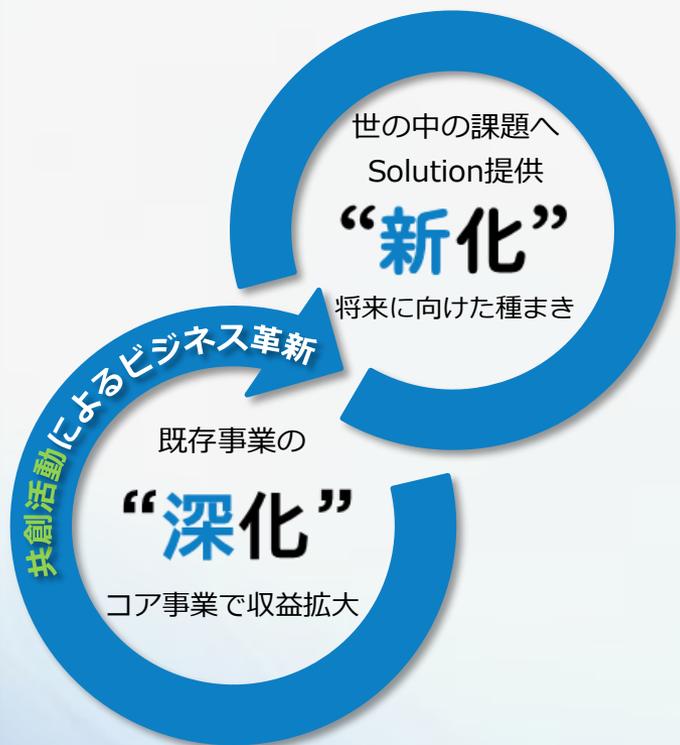
売上高・利益（連結）

	目標値 (24年3月期)	実績値 (24年3月期)
連結売上高	800億円	888億円
経常利益率	7%	4.6%
ROE	8%	8.1%
連結配当性向	30%	31.7%



6. 前中期経営計画の振り返り

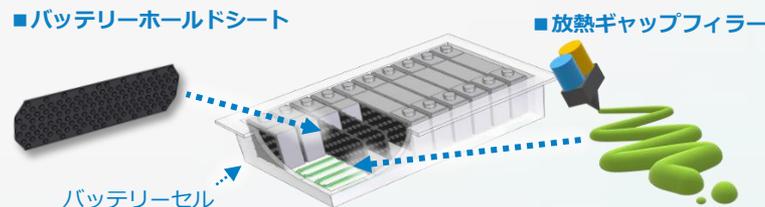
“深化”と“新化”全体像



達成状況

・ CASE 対応事業の拡大

- バッテリーホールドシートの拡販と新構造の開発
- バッテリーセルを効率的に冷却「放熱ギャップファイラー」の開発



※ 一般的なバッテリーモジュールのイメージ図

・ ライフサイエンス事業の創出

- 液体培地と化粧品原料の用途開発と安全性を追求
- 薬剤耐性菌検査チップの量産体制確立、新商品開発と論文化



・ ワイパー事業の強靱化

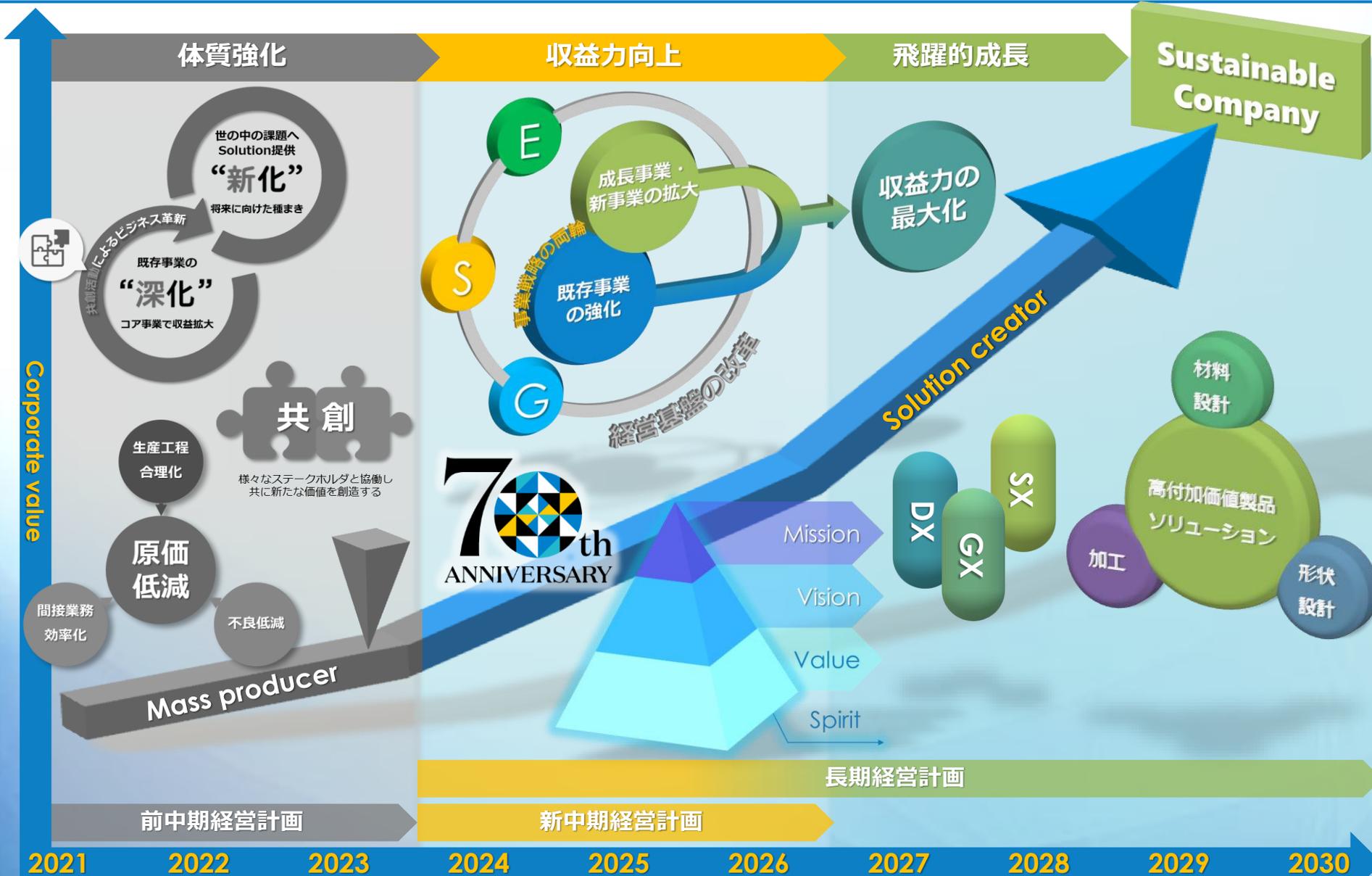
- シミュレーション技術を用いた設計と実車を用いた社内評価による開発期間大幅短縮
- タイ主力工場の生産能力増強



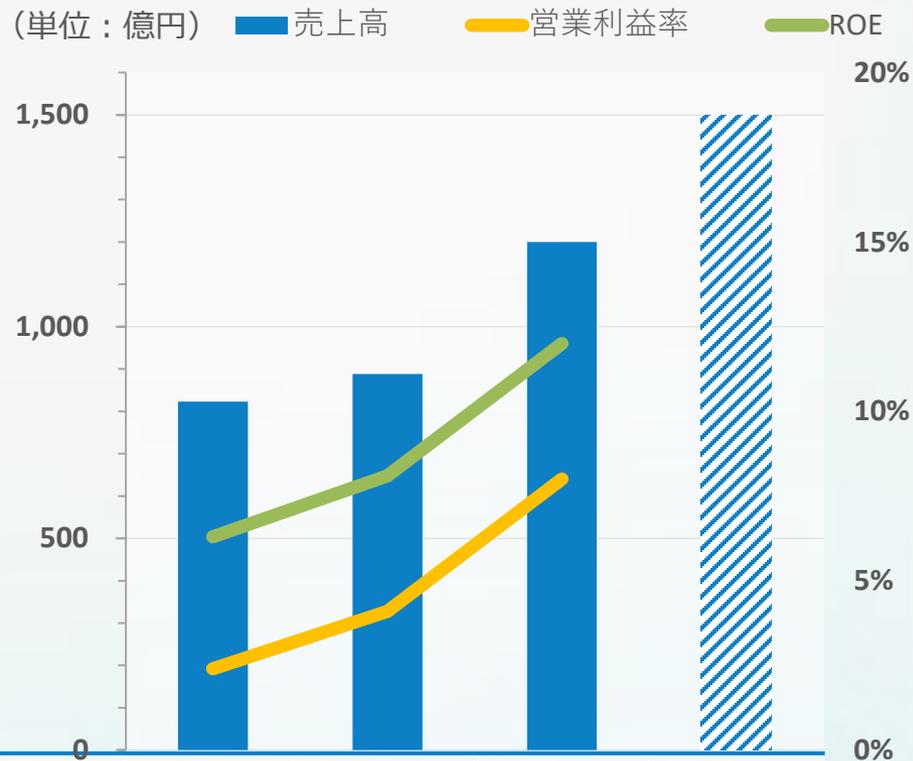
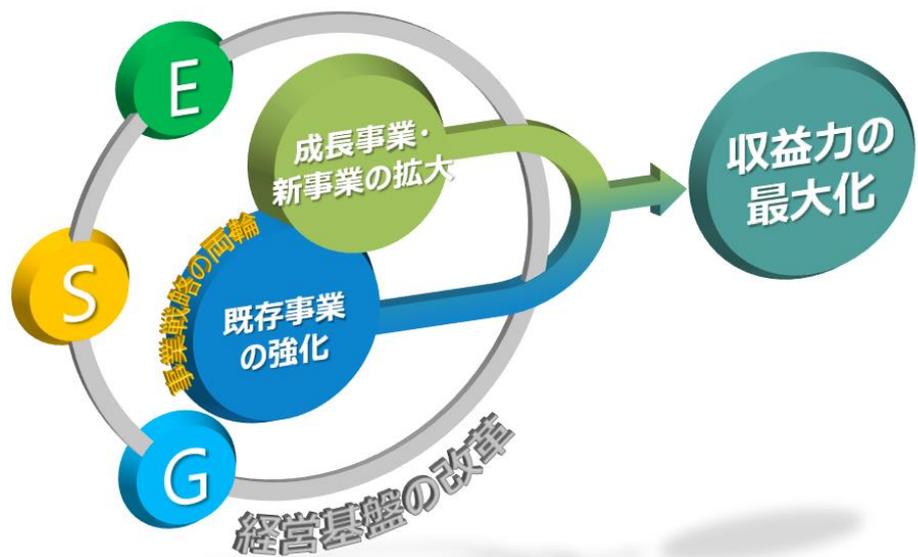
・ 海外事業の選択と集中

- 欧州拠点再編（チェコ拠点閉鎖）
- 米州拠点再編

6. 新中期経営計画2026の全体像



6. 新中期経営計画2026 戦略スキーム



	2022	2023	2026	2030
売上高	823	888	1,200	1,500
営業利益率	2.4%	4.1%	8.0%	-
ROE	6.3%	8.1%	12.0%	-

既存事業の強化

ソリューションビジネスによる拡販

- シミュレーション設計
～実車評価技術/中国 R & D強化
- インド R & D機能設置

強い成長地域への拡販

- インド・インドネシアでの技術・生産体制強化

ものづくり力変革と人材育成強化

- 革新的工法の構築／自動化／IoT導入
- グローバル人材育成の強化

成長事業・新事業の拡大

インダストリアル向け製品等の拡大

- ファクトリーオートメーション** 精密シールの開発/量産体制の確立
- 新エネルギー** 水素燃料用シール・風力発電用着雪防止コートの開発
- 航空/宇宙** 防振マウントの開発

CASE市場への拡大

- バッテリー** ・進化し続けるEV製品用ホールドシート
の開発・拡販
- ・放熱ギャップフィラー・
大型電池用防振製品の開発・拡販

ライフサイエンス製品の拡大

- バイオ** 細胞培養バック・培地、化粧品原料
- 細菌検査** 薬剤耐性菌検査チップの
量産体制確立、拡販

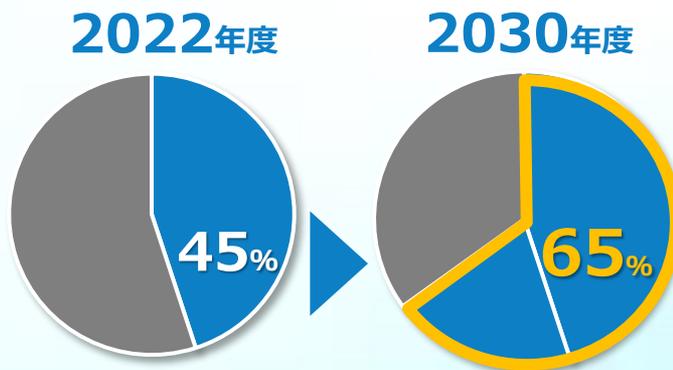
6. 新中期経営計画2026 既存事業の強化

ワイパー ラバー

技術開発
トータルソリューション



OEM
グローバルシェア拡大



タイ主力工場の
生産増強



グローバルNo.1の座をさらに盤石に

フコクワイパーの紹介

FUKOKU

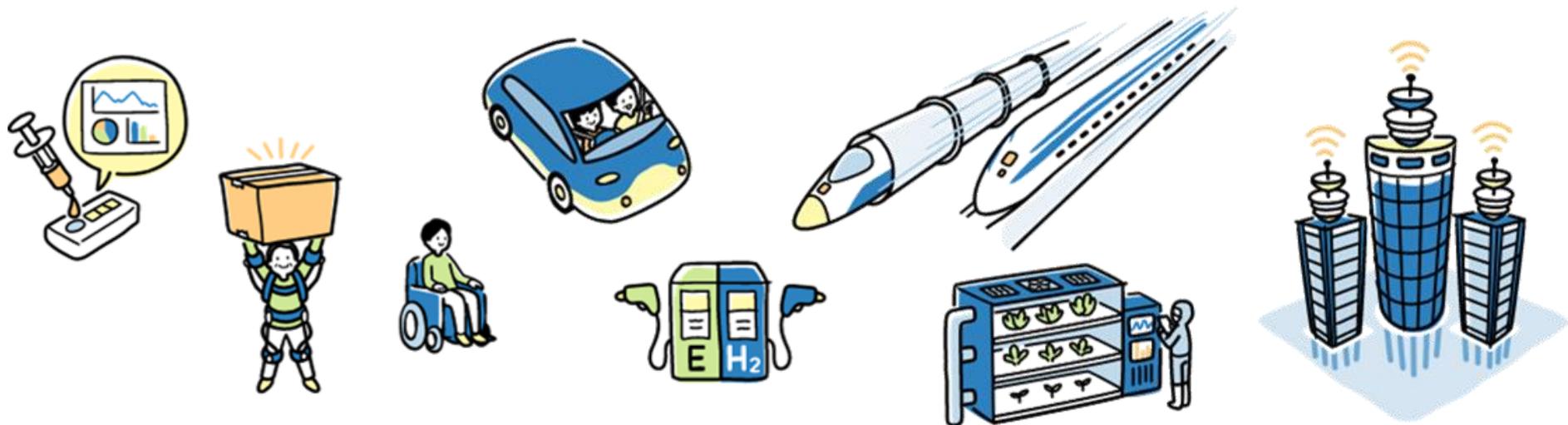
下のリンクをクリックして動画をご覧ください。

fukoku-rubber.co.jp/dcms_media/other/wiper_introduction.mp4



Φ FUKOKU

あらゆる願いを、感動に変える。





Yes, We Do!

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2024年5月22日 株式会社フコク

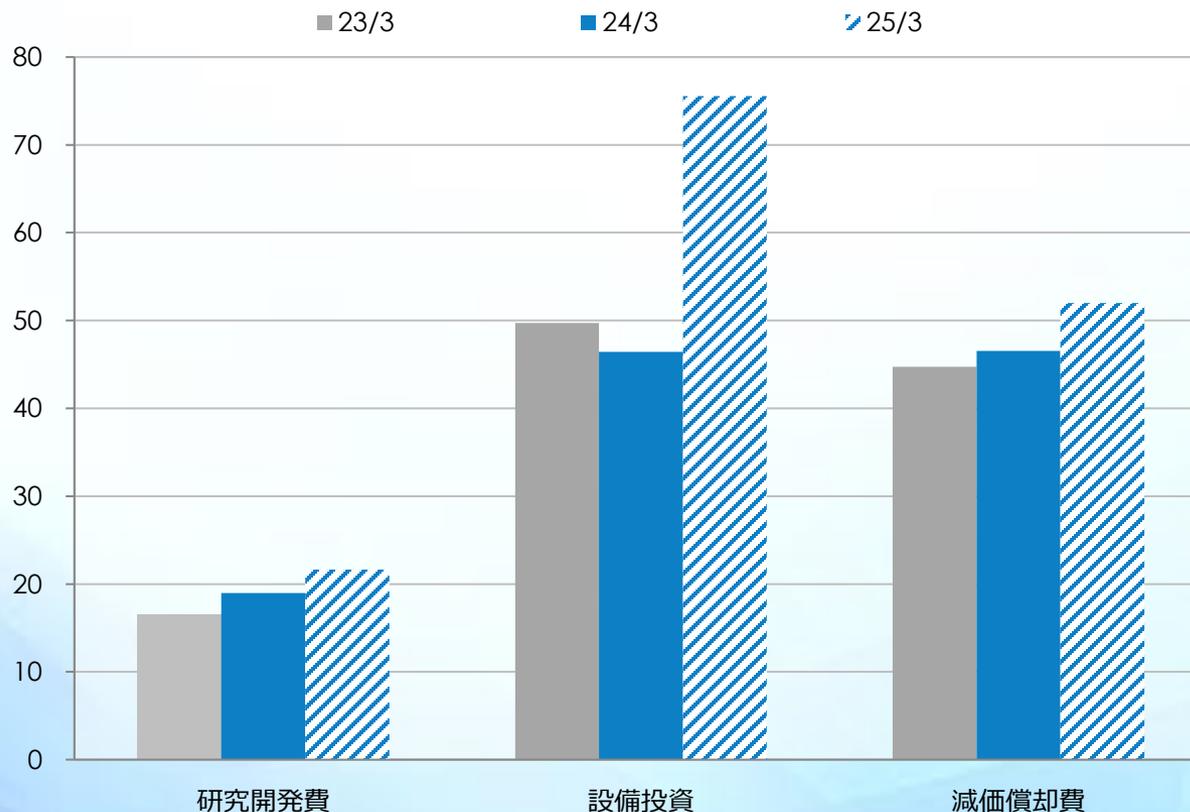
Appendix



1. 研究開発費、設備投資、減価償却費

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)



2. 会社概要

会社概要



事業概要	ゴム製品、金属・合成樹脂製品、 OA・電子機器・医療用具の製造販売 等
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 (5185)
設立	1953年
本店	埼玉県上尾市
代表者	代表取締役社長 大城 郁男
従業員数	連結 4,594名、単体 1,157名 (※)
株主数	16,097人 (※)
拠点・ 関係会社	<ul style="list-style-type: none">・ フコク単体 : 5工場、2事業所・ 関係会社<ul style="list-style-type: none">- 連結子会社 : 国内2社、海外14社- 持分法適用会社 : 海外1社

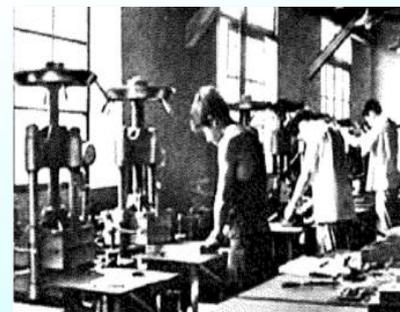


※ 2024年3月31日現在

2. 会社概要

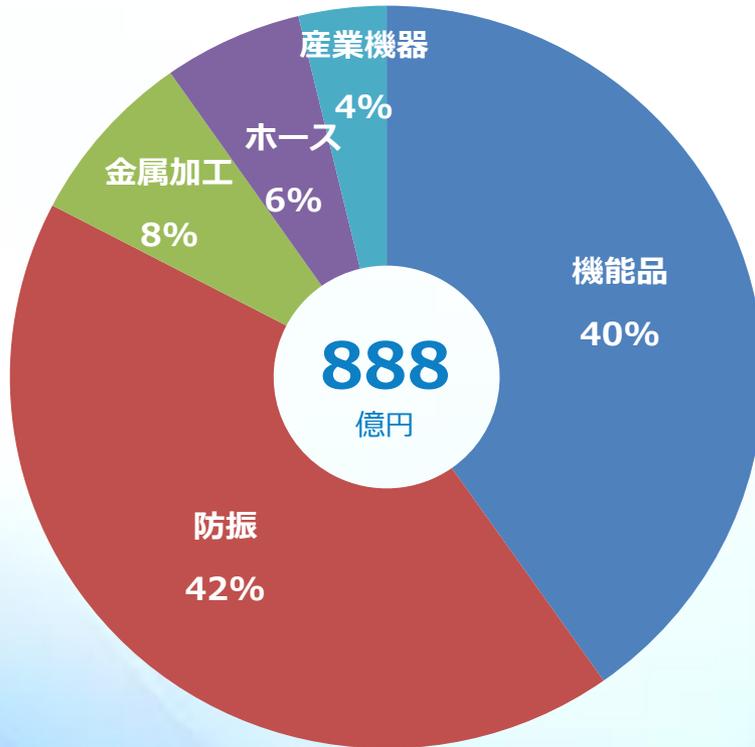
沿革

1953年	12月	創業者の河本 栄一が、 富国ゴム工業株式会社を設立
1956年	4月	ワイパーブレードラバーの技術開発に成功
1972年	9月	末吉工業株式会社に資本参加
1983年	1月	タイ国バンコク市に合併会社タイフコク株式会社設立
1986年	1月	株式会社フコクに商号変更
1994年	10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年	2月	株式会社東京ゴム製作所に資本参加
2004年	3月	東京証券取引所 市場第二部に上場
2005年	3月	東京証券取引所 市場第一部に上場
2020年	6月	経済産業省より『2020年版グローバルニッチトップ 企業100選』に当社が選定
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行
2023年	6月	大城 郁男が代表取締役社長に就任



2. 会社概要

事業別売上（2024年3月期 連結）



機能品

		
ワイパーブレードラバー	等速ジョイント用樹脂ブーツ	ダイヤフラム

防振

		
ダンパーブリー	V-ロッド	ビスカスマウント・キャブサスマウント

金属加工

	
建機用燃料タンク	建機用ドアカバー

ホース

	
インタークーラーホース	ウォーターホース

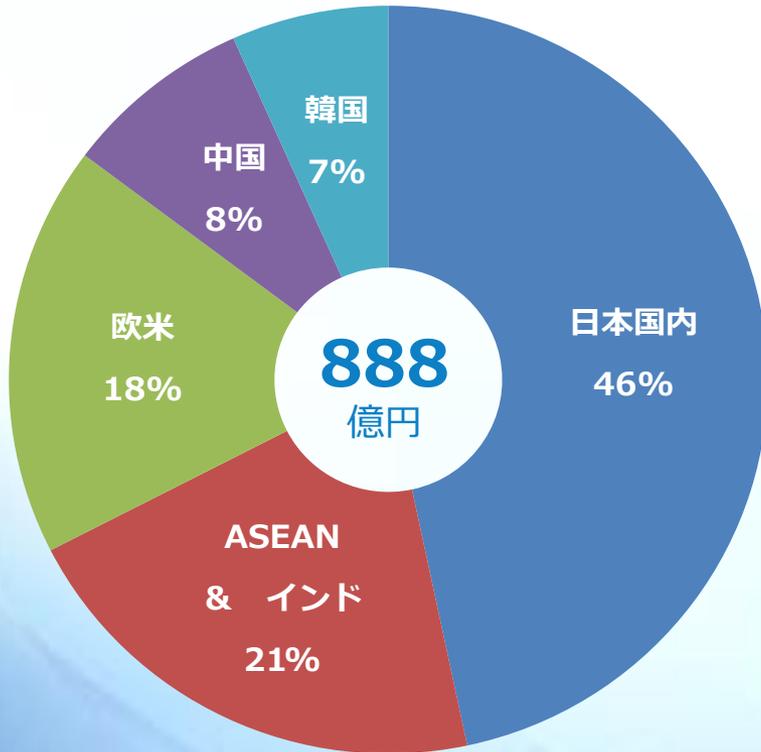
産業機器

		
プリンターローラー	培養バッグ・培地	細胞培養上清液

2. 会社概要

地域別売上（2024年3月期 連結）

グローバルネットワーク

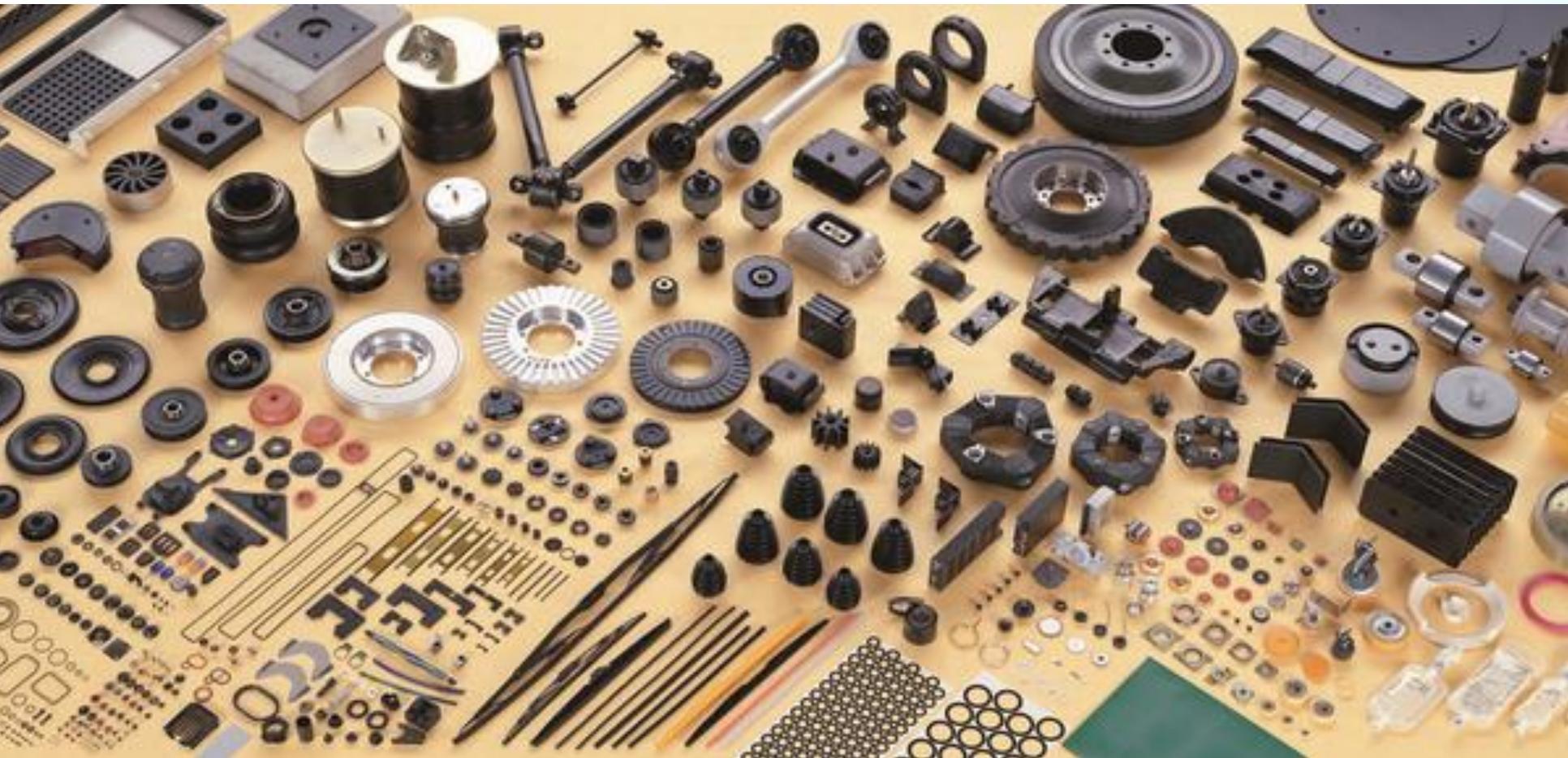


 日本 1953年	 インドネシア 1997年	 インド 2010年
 タイ 1983年	 アメリカ 2001年	 ベトナム 2011年
 韓国 1987年	 中国 2001年	 メキシコ 2014年

※顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております

2. 会社概要

当社の特徴：多種多様な製品を生産販売



2. 会社概要

高シェア製品

自動車分野

国内シェア
90%以上

ワイパーブレード
ラバー

50%

クランクシャフト
ダンパー

15%



世界
シェア※
(%)

※当社推計

ダイヤフラム

30%



ピストンシール

17%



等速ジョイント用
樹脂ブーツ

12%



他分野

ビスカスマウント
(建機用)

70%



細胞培養バッグ

35%



インゴットワイヤーソー
メインローラー

30%



ニッチな分野で高シェア製品を数多く輩出

2. 会社概要

表彰関連：グローバルニッチトップ企業100選
(2020年6月)

経済産業省より、国際市場開拓に取り組む企業のうち
ニッチ分野で高シェアを確保し良好な経営を
実践する企業として

「2020年版経済産業省

グローバルニッチトップ企業100選」に

選ばれました！

以下審査基準を基に、外部有識者で構成する選定評価委員会の審議を経て選定。

1. 世界シェアと利益の両立
2. 技術の独自性と自立性
3. サプライチェーン上の重要性

